片桐英数塾通信

河合サテライトネットワーク校
全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

流行りの言葉にその時代を見る

What do you think you will be in the future?

二〇一〇年頃がピークだったようです。その後、この国の人口は減少の一途を辿っています。二〇二〇年頃になると、その勢いはさらに加速するらしい……。これが少子高齢化の逃げようのない現実です。

私が住んでいるのは本当にのどかな田舎です。家も数軒が密集しているところもありますが、基本的にポツリポツリと点在しているという感じです。こんな感じの人口も住宅も少ないのどかな田舎ですが、それでも、大晦日なんかでどこの家にも灯りがともっているのを見ると、「みんな起きてるんだな」と思いながら、家は違えど、どことなく同じ家族になった気がして安心感を抱いたりしておりました。

ところが、少子高齢化の波は田舎の方から徐々に現実として現れるらしく、これまで灯りのともっていた家から、灯りが無くなり始めています。空き家が、一軒、また一軒と出始めています。「少子高齢化」と何年も前から耳にはしていたのですが、特にその変化が見えないうちは、どこか他人事のように感じてましたが、実際にそれが現実のものとして現れてくると、何とも言えない寂しさを感じています。

来年には私が通った小学校も合併で廃校になることが決まっています。全国的な傾向らしいのですが、その土地から小学校がなくなると、過疎はさらに加速するようです。……。冗談ではありません……。もう一度過去には戻れないのか?

過去を振り返り、いつが今と最も異なっていたかを考えると、バブルの頃がそうだったように思います。私が中学・高校を過ごしたのはバブル絶頂の時でした。その頃の中学生や高校生のことを思い出しますと、みんな未来に希望を持っていました。「未来は今よりも良くなるはずだ」というように何の根拠もなく信じ切っていました。ところが、今の中高生と接する中で感じるのは「今よりも未来が良くなる」と感じている子は、もしかすると少数派のようだということです。時代とともに、未来に抱く明るさの感じ方にも差が出てきているということです。

時代の変化を数値などで把握するのではなく、もっと感覚的に把握できるものはないのだろうか、と考えてみました。そこで思いついたのが『流行語大賞』です。『流行語大賞』は、ちょうどバブル経済の始まったのと同じ頃の一九八四年から始まっています。早速、インターネットで検索して調べたのですが、懐かしくしみじみと思い出すものもありました。

「イッキイッキ(1985)」。今も大学生はやっているのでしょうが、当時のノリを表していると思います。「朝シャン(1987)」。朝シャンは朝シャンプーするというものです。(知ってるか……)。高校時代は私は野球部にいたもので、坊主頭でございました。ですが、どうしても時代について行きたいという衝動から、ちょいちょい朝にシャンプーをしておりました。どうでも良い話でしたが……。

たぶん、時代は浮かれていたのでしょう。世の中の景気が良くなると、余裕ができてきて、ちょっといい加減な感じがもてはやされるようになるのが時代のパターンに思えます。それは「五時から男(1988)」からも言えると思います。

今思えば、戦後の世界のパワーバランスが崩れ始めたのが、これがきっかけだったと思っているのですが「ペレストロイカ(1988)」。この頃の日本経済は、今思えば夢のように思える程圧倒的で、そんな中で流行った本がありました。それが「No と言える日本(1989)」です。「バブル経済(1990)」という言葉自体も流行語大賞に選ばれています。

どんどん浮かれた世の中になり、高価なブランド品が飛ぶように売れ、持っている物がその人の価値と言っても大きく間違えてない程、変な世の中だったと思います。私は嫌いだったのですが「アッシーくん(1990)」という言葉もありました。

しかし、一九九〇年も過ぎますとバブルは崩壊へと向かいます。株価は驚異的に暴落し、地価も下落し始めます。まだまだ浮かれた感じは残っていたと思いますが、徐々に現実が見え始めたのが一九九三年や一九九四年だったのかもしれません。「二五〇〇円スーツ(1993)」、「価格破壊(1994)」。この頃から市場に安い品物が流通し始めたように思います。この流れがデフレ経済を長期化させたのかもしれません。

安い製品を作るために、この頃くらいから地方のメーカーまで、人件費の安い中国で生産を始めるようになります。いかに安く作るかが最優先課題でした。私は大学卒業後、とある金融機関で営業として十年とちょっとお世話になっていたのですが、二〇〇三年くらいだったか、担当先の製造業を営む企業を訪問した際、「この二つの製品を見ろ。どこが違うか分かるか?」とそこの社長に聞かれ、どう見ても全く違いが分からず「分かりません。どちらも良くできているように思います」と答えたところ、「わしもや……。実はこっちは中国で製造したものや。わしらの産業では、技術的には追いつかれたと言ってもいい……」と複雑な顔をされていた社長の顔が忘れられません。「わしらはひょっとしたらとんでもないことをしたんじゃないのか?」とも。

これは私の感じていることですが、バブルの頃は、どこか「数字のためには何をしても良い」という風潮があったのかも知れません。ですが、バブル崩壊によりその時の誤りが表に出て来るにつれ、正しくないものは罰するというような流れとなったと思います。それが「モラルハザード(1998)」、「自己責任(2004)」に現れているように思います。

ここまで『流行語大賞』から、思いつくまま書いてきました。書いていて懐かしかったです。懐かしくはありましたが、懐かしいばかりで、もう一度、過去のような世界に戻れるようには私にはどうしても思えません。よくよく考えてみますと、一番大切なのはこれからのことです。これからどうなるかなんて、正直なところ、私には全く分かりません。ですが、「生きる」という言葉がキーワードとなるのは間違いないと思います。

これまで「生きる」ために有利だとされてきた基準が当たり前のように存在してきた思うのですが、その基準が徐々に薄れ、弱まっていく中で、新しい価値観、新しい人たち、新しい文化、とにかくこれまでに経験し接してきたものとは別の新しい世界の中で「生きて」いくには何が必要なのだろう?

これはとても難しいことなのですが、今、そのことを考え、将来の「生きる」を考えるべき時がきているように思えてなりません。だから中高生は、今、多くのことを知り、多くのことを経験し、多くのことを身に付けなければならないと思います。

デイビッド・セイン英語ジム

David Thayne's Native English Gym

デイビッド・セイン英語ジムで10,000単語と30,000会話例文をGETする!

スクール会員・ホーム会員募集!
対象: 小学生(1年生から)、中学生、高校生、大学生、社会人

みなさん、英語は難しいと思っていませんか?「デイビッド・セイン英語ジム」の学び方は、とてもナチュラル。赤ちゃんが自然に言葉を習得するプロセスをもう一度たどり直すように、まずはたくさんの会話を聴くことからはじめ、次第に短いやりとり、そして会話へとつなげていきます。人が言葉を学ぶ道筋を効率よくたどらせてくれる「デイビッド・セイン英語ジム」は、みなさんの「ネイティブ感覚」を日常的に鍛え、グローバル人材を育てるフリースタイルでオンリー・ワンの「バーチャル・トレーニング・ジム」です。 詳しいお問い合わせは坂本教室まで。

片桐英数塾からのお知らせ

天神教室・坂本教室の
大型連休中の休講日は、4月29日(水)~5月4日(月)、
以降5月のお休みは、10日(日)、17日(日)、24日(日)、31日(日)です。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

HP ｱﾄﾞﾚｽ http://www.katagirijuku.com
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ katagirijuku@docomo.ne.jp

こちらのQRコードから塾のHPにアクセスすることができます。

第1回全統高1・2模試 5月23日(土)

申込締切日 5月13日(水) 受験料 3,500円

※受験希望者は、別紙実施要項を確認の上、締切日までに受験料を添えて申込んでください。
申込み後のキャンセルは出来ませんので注意してください。

「覚える人」になる前に「考える人」になろう!
パズル道場 算数 国語 算数MAX
体験・説明・受講日時のご相談等、随時受付中です。
お問い合わせは、坂本教室まで!
引き続き受講生募集中!